「協同学習を促す看図アプローチ：高校教員・高校生との共同研究」発表

1 月 25 日に開催された SUTLF2025 で、崇城大学の溝上広樹先生と熊本県立第一高等学校 2 年生の三原菜奈海さんによる看図アプローチに関する口演発表が行われました。演題は「Promoting Cooperative Learning through the Figurative-sign-interpretation (KANZU) Approach: Case Studies with High School Teachers and Students」です。日本の大学で語学教育に携わるネイティブスピーカーが主に参加する地方学会で、大会テーマは「Collaborative and Cooperative Learning」でした。

まず高校教員との共同研究の成果を元に、看図アプローチの教育的効果が紹介されました。その後、高校の総合的な探究の時間で看図アプローチを活用した小学生向けの教材を作成している高校生三原さんの研究が紹介されました。いずれもワークショップを通して紹介され、参加された皆さんは看図アプローチを楽しまれていました。

発表後のコメントでは「英語学習でも写真を利用することがあるが、難しい場面がある。今後、看図アプローチをぜひ取り入れたい」、「三原さんが描いたオリジナルのイラストには、看図アプローチのエッセンスが詰まっており、隠された意図が多く感じられて素晴らしい」等、高い関心が寄せられていました。

高校生による看図研究の今後の発展や新たな共同研究について、可能性が感じられる大会になりました。

AL くまもと 11 月勉強会での三原さん模擬授業の様子
（SUTLF2025 発表資料より）